

鋼橋技術研究会

示方書研究部会

特殊橋（新交通等）基準研究分科会

昭和62年度活動報告書

昭和63年4月

## まえがき

”鋼橋技術研究会”は、我が国に於ける鋼橋技術の発展への寄与と、会員相互の交流を計ることを目的として、昭和59年度に発足した。その構成は、下記の6分科会より成っており、昭和60年度より実質的な活動が開始され、今年で3年目の活動に入っている。

- |                |            |
|----------------|------------|
| 1. 示方書研究部会     | — 西野文雄 部会長 |
| 2. 海外橋梁技術研究部会  | — 川口昌宏 部会長 |
| 3. 鋼橋の維持管理研究部会 | — 寺田博昌 部会長 |
| 4. 防音構造研究部会    | — 鳥居邦夫 部会長 |
| 5. 防錆設計技術研究部会  | — 津山繁昭 部会長 |
| 6. 複合構造研究部会    | — 若下藤紀 部会長 |

当”特殊橋（新交通）基準研究分科会”は、示方書研究部会を構成する4分科会の1つとして、分科会員13名でスタートした。その後2名の増員をみて、62年度の活動は15名の会員にて行ってきた。

本分科会で調査、研究の対象とする特殊橋とは、新交通関連に限定するものでなく、”日本道路協会・土木学会・日本国有鉄道”等で制定・運用されている現行の諸基準ではカバーしきれない橋梁である。すなわち”新交通・モノレール用橋梁、人工地盤、棧橋、水路橋、特殊輸送用橋梁、その他”などが挙げられる。

また本分科会の発足に当り、本分科会の活動内容については、次の3点を基本条件として確認されている。

1. 活動の対象は鋼橋、もしくは鋼橋に準ずる鋼構造物に限ること。
2. 基準研究部会の一分科会であることを認識し、標的である基準より大きく外れないこと。
3. 他の会員にも有用な情報となる研究成果を目指すこと。

以上の基本条件に従い、各年度を一区切りとしてテーマを設定し、研究を進めている。

本分科会では、過去2年間に渡り、新交通、モノレールをテーマとして取り上げ、事例研究、既定の全基準類についての分類、比較、内容調査、問題点についての研究を進めてきた。また昨年度は、日本交通計画協会より建設省と運輸省との統一指針として新しく出された”新交通システム土木構造物設計指針（案）”についての分析を行ってきており、一応の成果を挙げている。今年度の活動は過去2年間の研究を締めくくる意味で、新交通システム土木構造物設計指針（案）に基づく「試設計」をテーマとした。

本書は、昭和62年度の活動成果として、約1年に亘る試設計の内容を纏めたものである。他の分科会の会員の方々に、当分科会の活動状況を理解して戴き、かつ今後、新交通橋梁を設計する時の一助と成れば幸いである。